

活動テーマ

『いいまち 渋川 だいすき ミュージアム』を作ろう

実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、地域の人々に発信している。

1 本校の環境教育について

(1) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めるということである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。その3つの「つながり」とは、「教材のつながり」、「人のつながり」、「能力・態度のつながり」である。

学習の中で地域内外の人や世代を越えた人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなくて、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたり、行動に移したりする態度の育成を目指している。

(2) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。ESDカレンダーには、その学年のめざす子ども像や指導のねらい、持続可能な社会づくりの構成概念の何にあてはまるか明記している。また、矢印を使って、教材同士の「つながり」を一目でわかるようにしてあり、教師はそのつながりを意識して授業に臨んでいる。1年生から、6年生までのESDカレンダーを一覧すると、本校の環境教育の学びの系統性や関連性も確認することができる。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするのかという課題のもと授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、

2 【事例】「ふるさとの食について考えよう」

(5年生 総合的な学習の時間の取り組み)

(1) 郷土料理について調べる活動

- ア 昔の渋川を描いた絵図「渋川風景の記憶絵」を見ながら、地域の人々からくらしや食についての話を伺う。そして、草津市や滋賀県にはどんな郷土料理があるのかを調べる計画を立てる。
- イ 滋賀の郷土料理の中から一人一品を決めて調べ学習をして、わかったことを新聞にまとめる。
- ウ 地域の人々に教わりながら、郷土料理(アミノオご飯、湖魚の佃煮、湖魚のなれずし、丁稚羊羹、日野菜漬け、梅干し、山田ねずみ大根の糠漬け、えび大根)を作って食べる体験をする。
- エ 郷土料理の材料となる野菜を育てる。農協の協力を得て、学校園で日野菜と山田ねずみ大根の栽培に取り組んだ。
- オ 郷土料理に関する話を聞く。郷土料理の専門家や漁業者、農家の方から、料理作りや食材に対する思いを伺った。



ふなずしの飯漬けをする子どもたち



知事に手作りのふなずしを振る舞う

(2) 郷土料理のすばらしさを伝える活動

ア 調べてきたことをまとめて地域の人々に発信する『渋川ESDミュージアム』で郷土料理を紹介する展示物を掲示した。また、ESDミュージアムと同時開催で、5年生だけで「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。



滋賀の郷土料理博物館のテープカットセレモニー

イ 巡回展を開き、各地で郷土料理をPRした。滋賀県庁、草津市役所、渋川市民センター、地元ショッピングモールなどで展示を行った。県庁では、三日月知事が見に来てくださり、手作りのふなずしをご試食いただいた。また、草津市役所では市長や教育長に子どもたちが学習の成果を発表し、ふなずしをご試食いただいた。

ウ 郷土料理を伝える交流会を行う。博物館における展示だけでなく、直接出合っって郷土料理のよさを伝える交流会を草津東高校や地元企業やお寺などで開催した。その際は、子どもたちが栽培した米と手作りした梅干しでおにぎりを握り、食べていただいた。

(3) 成果

子どもたちの事前事後のアンケートや体験ごとの自己評価シートの分析から、体験を重ねるごとに郷土料理に対する価値や、残して伝えていきたいという思いが高まっていくことがわかった。子どもたちは、郷土料理は、地元の食材を美味しく食べるために気候を上手に利用する先人の知恵が詰まっていることに気づいていった。そして、郷土への愛着や誇りを高めることができた。

(4) 課題

郷土料理について本やインターネットで調べるだけでなく、実際に作って食べるという体験を数多く取り入れた。また、50人を越えるゲストティーチャーを招き郷土料理やふるさとに対する思いを語っていただいた。調理体験や出会いの場を設定するために、関係者との打合せ等の時間を確保することに難しさがある。

3 エコスクールの取り組みを振り返って

子どもたちは、地域のくらしや自然をテーマに学ぶことを通して、地域の環境について考え、「ふるさとのすばらしさ」に気づき、地域への愛着や誇りを深めることができた。本校の環境教育は、持続可能な地域づくりやそれを担う人材育成の場であると捉え、実践を深めてきた。

学校名	草津市立渋川学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp